

雌阿寒岳の火山活動解説資料

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

雌阿寒岳では、11 月 9 日 18 時頃から、体に感じない振幅の小さな火山性地震が増加しています。火山性微動の発生はありません。噴煙の様子は雲のため不明です。

現在のところ、ポンマチネシリ火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性はありませんが、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

また、引き続き火口内に影響する程度の噴出現象は突発的に発生する可能性がありますので、火口内や近傍では火山ガスや火山灰噴出に対する警戒が必要です。

雌阿寒岳では 10 月 17 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・地震・微動活動の状況（図 1～3）

2008 年 11 月 9 日 18 時頃から、体に感じない振幅の小さな火山性地震が増加しています。地震の日回数は、9 日 102 回、10 日 10 時まで 124 回（いずれも速報値）で、やや多い状態が続いています。

震源は概ねポンマチネシリ火口の浅い所に分布しており、これまでと比べて特に変化はありません。

なお、火山性微動は観測されていません。

・噴煙の状況（図 2）

遠望カメラによる観測では、地震が増え始めた 9 日 18 時以降、雲のため確認できていません。

・地殻変動

GPS 連続観測では火山活動によると考えられる変動は観測されていません。

火山性地震の発生状況等については、11 月 14 日 14 時頃に公表する週間火山概況に掲載します。

火山活動が活発化する傾向がみられた場合は、随時、お知らせします。

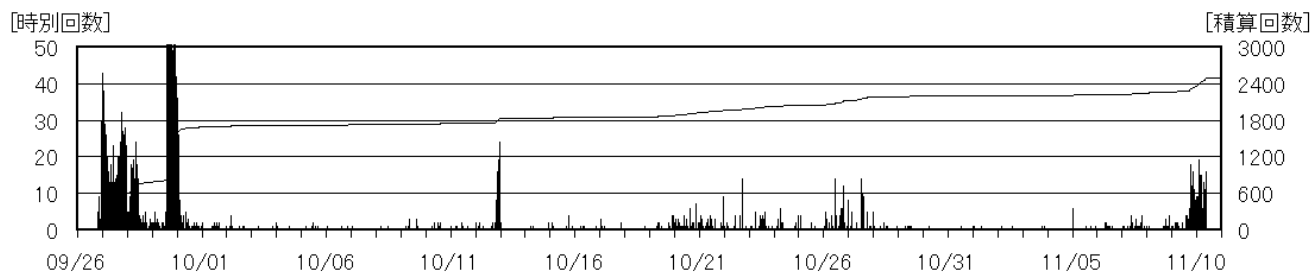


図 1 雌阿寒岳 火山性地震の時間別回数（2008 年 9 月 26 日～11 月 10 日 10 時現在）

棒グラフは時間別回数、折れ線グラフは積算回数

※資料は気象庁のほか、北海道、北海道立地質研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用したものである。（承認番号 平 17 総使、第 503 号）

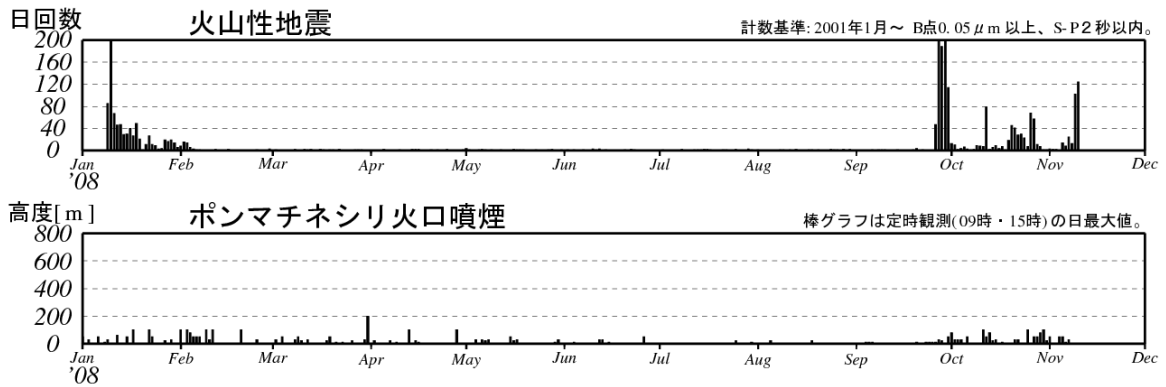


図2 雌阿寒岳 火山活動経過図（2008年1月1日～11月10日10時現在）

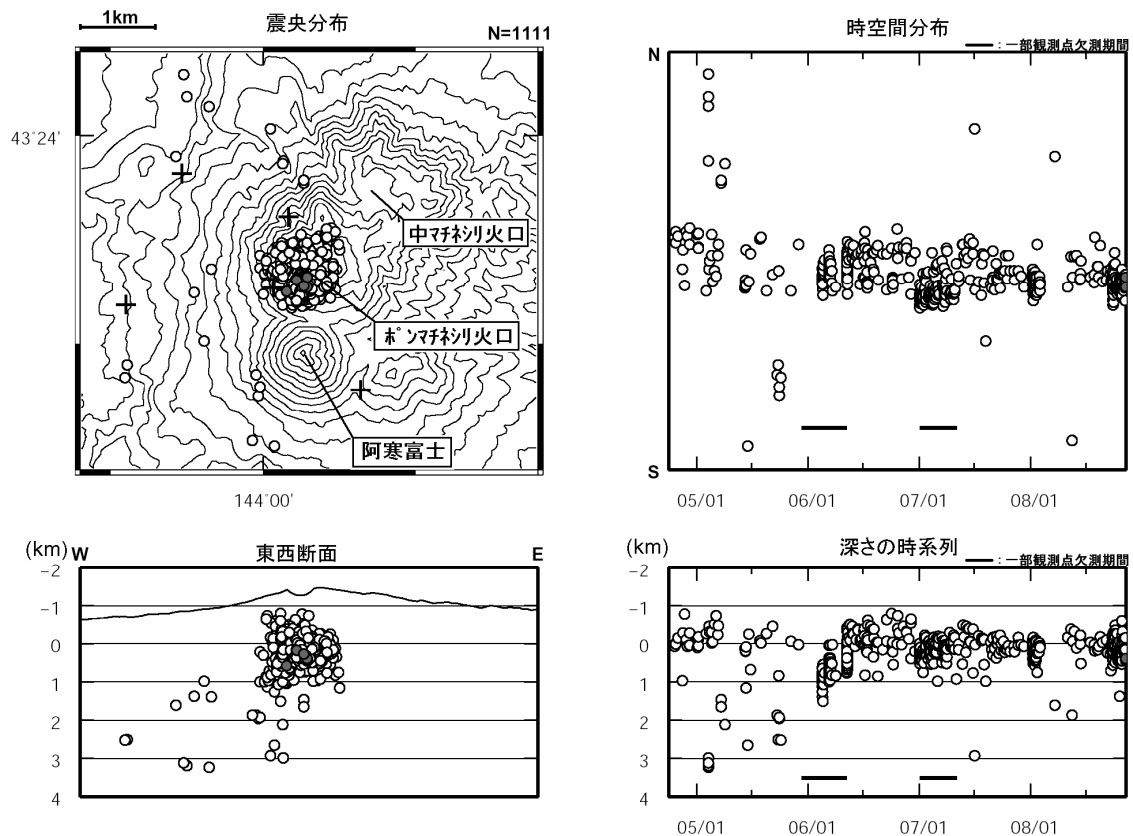


図3 雌阿寒岳 火山性地震の震源分布(2004年10月1日～2008年11月10日10時現在)
(丸印:震源、+印:地震観測点)

●: 2008年11月9日～2008年11月10日の震源

○: 2004年10月1日～2008年11月8日の震源

表示期間中、2005年12月11日から2006年5月9日及び2007年1月3日から2007年5月5日にかけて、一部観測点欠測のため震源決定数が減少し、精度も低下しています。

・震源の多くはポンマチネシリ火口直下の浅い所（山頂から深さ1～3km付近）に分布しています。2008年11月9日以降の震源も概ねこの領域内に分布しています。